

受理第2-2号

## 請 願 書

件 名

日本政府に核兵器禁止条約の署名と批准を求める意見書の  
提出を求める請願

紹介議員

佐々木 真由美、西川 友康、山崎 恭一、秋月 新治、  
浅井 厚徳

### 【請願の趣旨】

2017年7月7日、国連において122か国の賛成で核兵器禁止条約が採択されました。

条約は核兵器について破壊的な結末をもたらす非人道的な兵器であり、国連憲章、国際法、国際人道法、国際人権法に反するものであるとし、核兵器は今や不道徳であるだけでなく、歴史上初めて明文上も違法なものとなりました。

核兵器禁止条約は、被爆者をはじめとする日本国民が長年にわたり熱望としてきた核兵器完全廃絶につながる画期的なものです。

1987年10月8日に宇治市議会において決議された「核兵器廃絶平和都市宣言」は、宇治市のみならず日本国民の平和を求める切実な願いであり、その意思を表明したものです。

私は平和を願う宇治市民のひとりとして、日本政府が国連会議において採択された核兵器禁止条約に批准することを強く求め、国会及び政府に対し「意見書」を提出することをお願いいたします。

### 【請願の理由】

私は1945年8月6日に広島駅から母とふたりで超満員の路面電車に乗り、中心街に着く直前に原爆が投下されました。爆心から750メートル地点でした。脱線した電車のガラスが床にたたきつけられた乗客に襲いかかり、血の臭いと狂乱状態の中で母は私を引き起こし、倒れた人を踏み越えて車外に出ました。あたりにはたくさんの黒焦げの死体や全裸で焼け焦げた体で逃げてくる人々で溢れ、歩きながら見た地獄絵図は本当に人類が見たことのない光景でした。今でも忘れられないのは、動員されていた子どもたちが「おかーちゃん」と泣き叫びながら水を求めて川に入るも、すぐに死体となりぼろ雑巾のように流されていく姿です。

軍のトラックで運ばれた駅の構内には千人近い人たちがいましたが、すでに死体になった人、息も絶え絶えで泣き叫ぶ人など、正に地獄で、その時の死臭や異様な臭い、高い声で泣き叫ぶ人の声は表現のしようがないです。

40度を超える高熱と嘔吐で早く死にたいと望むほど苦しみ、母は被爆から3週後に亡くなり、私は何とか回復し10月末には小学校に行けるようになりましたが、当時の日本は障害者差別がひどく、頭髪が全部抜けていたのですいぶん苛められました。

私は超満員電車の唯一の生き残りであり、爆心から1キロ以内での生存者は一万人に1人の「奇跡の生き残り」として、1950年ごろから反原爆の運動に参加、1960年から被爆体験を語りはじめ約60年間に教会、寺院、小・中学校、大学などで千回以上の講話を通じ多くの人に反戦・反核を訴えてきました。

市役所の平和エリアで毎年8月15日に行われる市民平和祈念集会には十数年にわたり参加し、宇治市の「核兵器廃絶平和都市宣言」は心強く思っております。

今年2月10日現在で全国438自治体が「日本政府に禁止条約への参加、署名、批准を求める意見書」を決議しており、京都府内においても6市町が提出しております。

被爆者のひとりとして、心から核廃絶を願うものとして、意見書を提出していただくことをお願いいたします。

**【請願項目】**

核兵器禁止条約への日本政府の署名と批准を求める意見書を国会及び政府に提出すること

令和2年2月19日  
宇治市議会議員  
真田 敦史 様

請願者

被爆者 米澤 鐵志